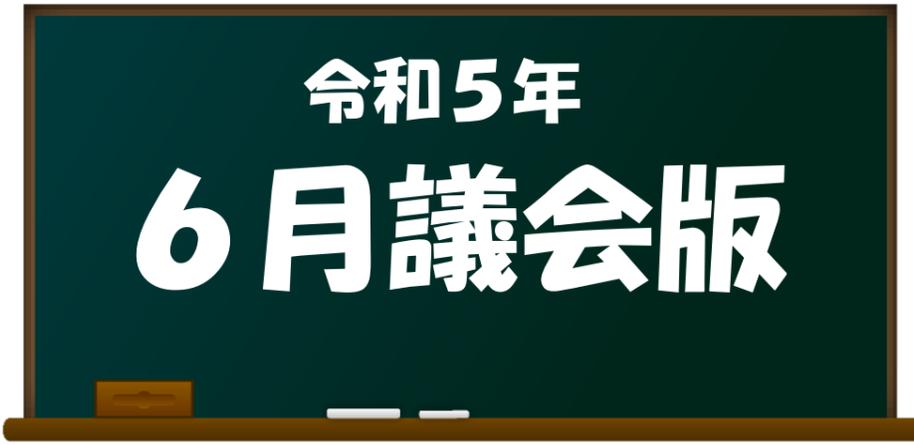


内藤幸男と座間の未来を考える会

市政ドリル 第41号



責任感

郷土愛

情熱



座間市の市政と一緒に考えましょう！

問1

座間駅周辺に小規模保育施設を新たに設置するための増額措置がされました。待機児童解消策としての期待もされますが、4月1日現在の待機児童数は何名？

①20名

②30名

③40名

④50名

問2

全国で100程度の地方自治体の小中学校をモデル校として指定するリーディングDXスクール事業。本市で指定されたのは中原小学校とどちらの中学校でしょうか？

①栗原中学校

②座間中学校

③西中学校

④相模中学校

子育て・教育支援策に期待 小規模保育施設の新設や学校のICT活用を促進

令和5年第2回定例会が5月24日から6月21日の期間で開催されました。今定例会では、座間駅周辺に小規模保育施設を新たに1か所設置するための増額措置や国が地方自治体への委託事業として展開しているリーディングDXスクール事業を本市が受託するための補正予算などが計上されました。

現在、本市の待機児童数は、県内ワースト(右表は神奈川県内の保留児童数と待機児童数)であり、4月1日時点で50名となっています。今回、新規の保育施設を設置することは、喫緊の課題の一つである待機児童の解消にもつながると考えます。なお、今回の事業者の公募資格は、認可外の保育園実施事業者も加えられ、多様な保育の選択肢が提供され、子育てを支援する体制が充実することを期待します。

リーディングDXスクール事業は、文部科学省が進める事業で、小中学校で一人一台のタブレット端末の整備が完了し、その本格的な運用を踏まえ、効果的な活用を通じた児童・生徒の学びの充実に向けて、優良事例の普及、教師の指導力向上、支援等を目的とした事業です。全国で100程度の地方自治体の小・中学校がモデル校として指定され、本市においては、これまで先進的な取組をしてきた中原小学校及び西中学校が指定校として選定されました。

	保留児童数	待機児童数
座間市	132	50
海老名市	169	13
綾瀬市	105	10
大和市	298	0
横浜市	3223	10
川崎市	1523	0
相模原市	631	10
平塚市	246	6
鎌倉市	229	28
小田原市	460	9
茅ヶ崎市	246	5
逗子市	27	11
三浦市	17	0
秦野市	45	0
厚木市	149	0
伊勢原市	136	19
南足柄市	18	0
町村	191	33
県内合計	8179	222

確かな一歩の積み重ねで座間市の未来へつなぐ。

答え 問1 ④、問2 ③

内藤幸男と座間の未来を考える会

☎090-6107-3467

✉zama@naito-yukio.com

〒252-0028 座間市入谷東3-8-23



内藤幸男

検索

討議資料

自民党



一般質問① 中学校給食について

佐藤市長は、「温かくて、美味しい中学校給食の実施へ」を選挙戦の公約として掲げられました。私も子育て世代の議員ですし、周りの同世代の方々もこの政策については注目をされています。しかしながら、これまでの議会でのやりとりでは、右の表が示す通り、導入をしたい理由しか分からない状態であり、正直これでは何十年たっても中学校給食の全員喫食というのが実現不可能だと感じているため、実現可能なものとするため、議論を深めました。
(*左の表の左側が私が中学校給食の全員喫食を実施する上で必要だと感じている項目で、右側が佐藤市長から答弁があったものを、簡潔にまとめたもの)

質問①佐藤市長は中学校給食の全員喫食を実現させることにどのような政策目的を抱いているのか？
市長答弁 現在の社会情勢をみると、児童・生徒の保護者の多くが共働きで、また、家庭環境の格差も広がりつつあるように実感しています。親が育児放棄をし、弁当も作ってもらえない、弁当代も持たせてもらえないという子どもも少なからずいるということも耳にしています。せめて学校に在る間は、そのような家庭環境に起因する不安から解放され、安心して楽しい学校生活を送れるような環境をつくっていくのが我々大人の役目だと考えています。そのような意味からも、福祉の視点を持って全員喫食を実施したいと考えています。

質問②給食の提供の方法と予算については、どのように考えているのか？
市長答弁 センター方式はもとより、デリバリー給食でも提供の仕方によっては温かい給食を提供できると聞いています。さまざまな選択肢の中から本市にふさわしい中学校給食ができ得る限り早期に実施できることを望んでおりますので、全員喫食に伴う予算につきましても、引き続き教育委員会と連携をして検討してまいります。

質問③前任者への答弁では、第五次座間市総合計画に政策を示す旨の答弁がりましたが、全員喫食を示す項目は読み取ることができませんでした。なぜ示さなかったのか？
市長答弁 教育委員会内で学校施設の適正化に係る基本方針を策定中であることから、中学校給食の全員喫食に関する事業計画については具現化していません。今後、公共施設再整備計画の進捗状況や学校施設の適正化に係る基本方針の内容を踏まえ、第五次座間市総合計画基本構想を具現化する実施計画において、お示しをしたいと考えています。

質問④市長も教育長も、現行のデリバリー方式(選択式)について評価をされています。上手に行っている政策をさらに予算を投じて変えるためには、相当な政策効果が期待できないことには難しいと考えます。全員喫食を実施することでどのような政策効果が出せると考えているのか？
市長答弁 政策効果は福祉の充実につながるものと考えています。

質問⑤政策効果は根拠になるデータが必要です。ざっくり福祉の充実と言われましたけれども、どれくらい改善されるのかというところで、具体的な数値等を示していかないとやはり効果ということにはならないと思いますので、準備の中で、データを収集して、根拠となる政策効果を打ち出していきたいと思っております。
市長答弁 データ等も必要であれば検討していきたいと考えていますが、こういったデータが相応しいのかということもありますので、今後、教育委員会と議論を深めていきたいと考えています。

質問⑥ほかの子育て政策に係る財源バランス等を含め、どのように考えているのか？
市長答弁 学校の老朽化の課題等もありますが、教育環境を整え、若い世代にとって魅力的に映るまちとなるために、第五次座間市総合計画基本構想の政策1である「共に学び、健やかに育つまちづくり」の実現に向けた取組は特に推進していきたいと考えています。

理由	生徒全員に温かい給食を食べていただきたい。平等性といった視点も含めて同じものを皆さんに食べていただき、絆を深めていただきたいという考えから、全員喫食を目指したい
政策目的	福祉政策？
方法	未定
予算	未確認
導入時期	未定
意思疎通	副市長の承諾は得ている
考え方	公共施設再整備計画の中で、市内の公共施設の全体的な在り方という部分も含めて考えていかなければならない課題
5次総との関係性	私が掲げていた政策については、総合計画の策定の過程で織り込んでいけるようにしていきたい
現行のデリバリー方式について	家庭から弁当を持参したいという要望にも、給食を注文したいという要望にも対応ができる方式であり、各家庭のニーズに細やかに対応できるものだと評価をしている
法的整理と条例の関係	未確認
政策効果	未確認
教育に関連する財源バランス	未確認
他の子育て支援策との整合性	未確認

	方式	中学校数	供給数	開始
三浦市	センター方式(2か所)	3校校+小学校	2,400食	昭和39年
大和市	センター方式(3か所)	9校+小学校	1万2,600食	昭和48年4月
小田原市	センター方式	11校	5,000食	平成元年
綾瀬市	センター方式	5校+小学校	7,600食	平成10年4月
厚木市	センター方式(2か所)	13校	6,300食	平成19年
川崎市	センター方式(3か所)	52校	3万1,000食	平成29年
愛川町	親子方式	3校	1200食	令和2年9月
横須賀市	センター方式	23校	1万食	令和3年9月
秦野市	センター方式	9校	4,500食	令和3年12月
葉山町	親子方式	2校	800食	令和5年4月
寒川町	センター方式	3校		令和5年予定
海老名市	センター方式	6校	4,000食	令和6年4月予定
平塚市	センター方式	15校	1万5,000食	令和6年予定
相模原市	センター方式(2か所)			令和8年
藤沢市	デリバリー方式(選択)	19校	喫食率3割	平成26年
逗子市	デリバリー方式(選択)	3校	喫食率7割	平成26年
横浜市	デリバリー方式(選択)		喫食率2割	
座間市	デリバリー方式(選択)	6校		平成29年
鎌倉市	デリバリー方式(選択)	9校	喫食率8割	平成29年
伊勢原市	デリバリー方式(選択)	4校		令和3年4月
茅ヶ崎市	デリバリー方式(選択)	13校		令和4年
南足柄市	自校方式	3校		

質問⑦文科省の調査によると2018年5月時点で完全給食が実施されている率は93.2%と、全国の多くが完全給食を実施されている中、県内はまだ50%と遅れている自治体でありました。しかし、給食法の改正がされる中、ここ数年で一気にセンター方式や親子方式を取り入れた給食を進める自治体が増えています。上表が、そのデータになりますが、お隣の海老名市をはじめ、平塚市や川崎市、横須賀市、秦野市、愛川町など、ピンク色になっている部分が、センター方式もしくは親子方式で全員喫食を決めた自治体で、コロナ拡大前くらいから一気に神奈川県内でも給食の提供方法を変える自治体が増えてきています。このような状況を見ていただいて分かるように、教育の平等性のためには、市長の公約云々にかかわらず、完全喫食は必然的にやらなければならない政策と感じております。市長、教育長には、県内地域において、このような状況で整備が進んでいることをどのように捉えているのかお伺いしたいと思います。
市長答弁 それぞれの自治体のお考えの下、長期的視点に立って学校給食を検討された結果であると認識をしています。
教育長答弁 現在、本市でも、学校給食も含め、学校施設適正化方針を策定中です。近隣市の状況も注視しつつ、長期的視点を持って、本市に相応しい学校給食の方向性を早期にお示しできるよう、引き続き検討を重ねます。

一般質問② 学校での子ども事故について

質問①本市の学校での子ども事故について、状況を伺います？
教育長答弁 本市の学校事故は、小学校では球技や跳び箱など体育の授業の際に、中学校では球技を中心とした部活動で多く発生しており、体をうまく支えられなかったことやボールをつかみ損ねたことなど、不可抗力による骨折、挫傷、打撲等が上げられます。

質問②本年3月に文部科学省は、各都道府県教育委員会教育長などに向けて、教職員の負担を配慮しながら、事故の発生可能性のある箇所の点検とその結果報告をお願いする周知文を送付しています。本市でもこの周知文は届いていると思いますが、教育委員会ではどのように受け止めて準備を進めているのか伺います。

教育部長答弁 消費者安全調査委員会からの意見を踏まえ、危険事例として挙げられた転落、落下の可能性のある箇所についての速やかな対応及び今後事故発生の可能性のある箇所の点検とその結果報告を求める予定である旨が記されており、事故防止及び安全管理上、対応が必要なものと受け止めています。本周知文は、各学校長にも周知の上、毎月実施している学校施設及び設備の安全点検の際に使用しているチェックリストについて、見直しを検討しているところです。

質問③本市では学校の施設や設備についての定期点検はどのような状況になっているのか伺います？

教育部長答弁 点検の1つめは、学校保健安全法施行規則第28条に規定される学校施設及び設備の安全点検です。本市では、毎月1回、児童・生徒が通常使用する箇所を対象として学校の教職員が実施しています。点検方法は、チェックリストに基づく目視や触診、作動確認です。2つ目は、校舎等建築物の非構造部材の安全点検です。学校の教職員及び本市職員により年1回実施しています。点検方法は、チェックリストに基づく目視や触診です。3つ目は、法定点検及び専門業者による安全点検です。運動遊具、体育器具、消防設備、受水槽、防火水槽、自家用電気工作物、空調機器等について、委託による保守点検を行っています。



質問④最近では安全点検の担い手に専門的な技術士を活用する動きも見られています。特に日本技術士会の子どもの安全研究グループによるメンテナンス台帳の整備とかかりつけエンジニアの設置の取組は有効的と考えますが？

教育長答弁 本市の学校施設は老朽化が進んでいることから、施設や設備を安全に使い続けていくためには、より丁寧な点検や維持管理が必要と考えています。このため、本年度は、建築基準法第12条の規定に準じて、学校建築物の劣化状況や毀損箇所、安全性等について、専門業者に委託し、一級建築士等の有資格者による点検を行う予定です。また、現在、学校を含む本市の公共施設を対象とした包括施設管理業務委託の導入に向けた準備が市長部局を中心に進んでいます。本業務は保守管理の業務水準の統一及び質の向上等を目的としており、建築物の維持管理について知識、経験を持つ業者に複数年にわたり包括的に管理を委託するものと認識しています。同業務で行う各種点検や補修の履歴は本市と受託業者で共有し、一元的で効率的な維持管理が期待されているところです。現在、本市及び本市教育委員会が進めているこれらの取組は、議員からご紹介いただいた内容とも重なる部分があると思います。まずは現在取り組んでいることをしっかりと進めて、学校施設の安全確保や事故防止につなげていき、技術士の活用については、今後の参考にさせていただきます。

一般質問③ 大風まつりについて

質問①4年ぶりにフルスケールで開催できた今回の大風まつりについての振り返りについて見解を伺います？

市長答弁 市内外から約5万8,000人が来場されました。開催初日の開会式直後には、秋田県大仙市から寄贈された昼花火が盛大に打ち上げられ、4年ぶりの通常開催の幕開けに花を添えていただき、来場者の方々も大変喜ばれておりました。この日は午前中に風文字「華風」を書き込んだ七間凧の掲揚を行い、約8分間、大空に舞い上がりました。また、2日目は、市内中学生による一間凧の掲揚が行われました。仲間と力を合わせて凧を揚げた経験は、生涯の思い出になったことと思います。

質問②ケガを抑えることや、砂ぼこり対策、凧骨の粉碎緩和として土のグラウンドではなく芝生や人工芝であった場合、状況が異なるものかと思いますが、見解を伺います？

地域づくり部長答弁 今回、ケガをされた方がいらっしやったことについては真摯に受け止めております。芝生や人工芝にすることで砂ぼこり対策や大風の骨の粉碎緩和につながることは考えられますが、ケガを抑制する効果については不明です。

質問③新戸で行われている相模の大風は、草の上でできている中で、砂ぼこり対策や参加者の満足度を上げられるような凧揚げができているということで、地域の文化継承する中でしっかりと環境があるということを知っています。やはり座間市としても、相模川グラウンドの芝生化は今までスポーツ課で予算算出まで行かなかったということですが、横断的に協力をしながら、実現していただきたいと思いますが見解を伺います？

地域づくり部長答弁 芝生化につきましては、一般的には管理が難しいという面がございます。除草や散水とか肥料散布などの芝の管理に労力や経費がかかることや、根を生やすまで芝生の中に入れないとか、駐車場などの役目をするときには急発進や急停車で芝がえぐり取られてしまったり、また、人工芝であれば、費用は高額でございますが、維持費はかからない代わりに耐用年数が短いなどの課題もございますので、相模川グラウンドの整備につきましては、使用形態等を踏まえて研究してまいります。



最近の活動



座間駅周辺を活性化させるためZAC(座間駅周辺エリアマネジメントコンソーシアム)にて、シン・アサイチを開催いたしました。座間駅前の広場で、野菜の積み放題や駄菓子市、浜焼きなどを行い、多くの方で賑わいました。



日本青年会議所が企画しているグローバルユース国連大使に座間在住の岩城紅さんが選ばれました。座間青年会議所メンバーとして全面的にバックアップを行い、地域でのSDGsの啓発などに努めていきます。



関東若手議員の会で神奈川研修を開催いたしました。初日は県の温泉地学研究所に伺い、火山と地震災害について学びました。2日目は小田原市で脱炭素施策について先進的な事例を講義いただきました。



7月30日に座間市消防団消防操法大会が行われる予定です。地元を守るという誇りかけを掛けて、日頃の訓練の成果を披露いたします。ぜひ応援よろしく願いいたします。



座間市議会で初となる普通救命講習会が実施されました。仕事柄、人が多く集まる場所に顔を出すことが多く、応急手当や心肺蘇生、AEDの取り扱いを学んでおくことは重要です。

コロナ禍が落ち着いた今、市に求めたいものは何ですか？

2016年9月の座間市議会議員選挙において、皆様からのご支援をいただきまして座間市議会議員になることができました。地域に根付いた活動を心がけ、市民の皆様からの要望や課題に向き合いながら市政に取り組み、2020年には2期目の当選を果たしました。

しかしながら2020年以降は、新型コロナウイルス感染症の影響により、地域の方々と顔を合わせる機会も減少してしまいました。そのコロナの状況も落ち着いてきたことから、地域の皆様が求める事項をヒアリングさせていただき、皆様にとって必要な政策・施策を進めるために取り組みたいと考えています。ぜひアンケートのご協力をお願いいたします



スマホや携帯でQRコード読み込んでアンケートにお答えください

後援会へのご加入も随時募集しております。ご要望なども気軽にご相談ください。お電話090・6107・3467もしくはメールzama@naito-yukio.comにてご連絡ください。